

G1朝日杯FS

<最終見解>

本命はダノンマッキンリー。

当レースに限らず芝の2歳戦はデインヒルの血を持つ馬が世界的に強いです。

先週の阪神 JF 勝ち馬もデインヒル持ち。

昨年の当レースもデインヒル持ちが2、3着。

3年前の勝ち馬グレナディアガーズ、

4年前の勝ち馬サリオスもデインヒル持ち。

ダノンマッキンリーの母父はホーリーローマンエンペラー。

スプリント力と体力の完成度の勝負では日本よりも格上の

欧州2歳短距離戦線で高いパフォーマンスを出した馬。

当時デインヒルの後継種牡馬がクールモアに手薄だったため、2歳引退して種牡馬入りした馬。

祖母ラグリオンはアイルランドの歴史的名牝クイーンズロジックの母。

同馬も2歳のスプリント戦で圧倒的な成績を収めた馬。

これだけの名繁殖にホーリーローマンエンパイアが配合されているのは当時、

それだけデインヒルの後継種牡馬として期待されていたから。

朝日杯 FS は日本で主流の中距離指向の能力よりも、
欧州 2 歳戦のように体力の完成度やスプリント能力に優れている馬の方が走りやすいレース。
当レースで問われる能力は最上級の良血。

タガノエルピーダの兄はタガノエスプレッソ。
朝日杯は 6 着。兄はブラックタイド産駒で五十嵐厩舎。
タガノエルピーダは厩舎も父も兄よりも実績が上。
血統適性はダノンマッキンリーの方が上ですが、主流能力の高さはこちら。

人気薄は将来スプリントにシフトする馬。
スプリント血統馬が走りやすいレース。

2 ミルテンベルク、4 サトミノキラリは父がスプリント G1、
当レースで実績を残す種牡馬。母父がディープインパクト。

シュトラウス、ジャンタルマンタルともに本質的には中距離指向。
速い時計の出る 1600m 適性は低く、人気よりは好走率下がると見立てます。